

千葉大学医学部附属病院で胃癌の手術をされた 患者の皆様、ご家族の皆様へ

2024年3月27日

病理診断科

千葉大学医学部附属病院病理診断科では、機械学習を用いた胃癌リンパ節転移迅速診断の有用性に関する検討に関する研究を行っており、以下に示す方の試料や診療情報等を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に試料・情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2016年1月1日～2018年12月31日の間に胃癌の手術をされた方

1. 研究課題名

「機械学習を用いた胃癌リンパ節転移迅速診断におけるドメインシフトに関する検討」

※ドメインシフト：診断精度の差

※機械学習：コンピュータが問題とその答えを用いて学習し、ルールやパターンを学習して特定のタスクを実行する技術のこと。

2. 研究期間

2024年承認日～2026年3月31日

この研究は、千葉大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

本研究では、HE染色法（ヘマトキシリン、エオジン液を使い染色する方法）により処理された転移リンパ節組織像の機械学習により、病理専門医と同等かそれ以上の転移診断を自動で行うことができるかどうかに関し検討を行います。検討の対象は、すでに胃癌と診断され手術治療を受けている患者さんのリンパ節標本とし、バーチャルスライドシステムに取り込まれた組織画像を機械学習に掛けることで、リンパ節中の腫瘍細胞の自動抽出が可能となるかどうかに関し検討します。

本研究の成果により、従来からある病理診断法を用いた迅速なリンパ節転移診断が可

能となります。これは病理専門医の負担を大幅に軽減するばかりでなく、将来的な消化器癌における胃の機能を温存した縮小手術が広く普及するものと考えられます。

方法としては胃癌の手術後、病理診断の為に作成された病理組織ブロックから、新たに切片を作製・染色し、病理組織画像を取得します。また、理組織診断レポートを利用させていただきます。得られた病理組織画像をシステムに取り込み、機械学習を行うことにより、迅速かつ正確な胃癌のリンパ節転移診断を行うプログラムの開発を行います。

4. 研究に用いる試料・情報の種類

胃癌手術時に採取された、癌の転移したリンパ節検体を用います。また研究対象者の選択にのみ診療録における癌情報を使用いたします。

5. 研究組織（試料・情報を利用する者の範囲）

研究代表機関名	研究代表者
千葉大学フロンティア医工学センター	長野菜穂子
共同研究機関名	研究責任者
獨協医科大学埼玉医療センター病理診断科	松嶋 惇

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた試料・情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、千葉大学医学部附属病院メドテックリンクセンターにおいて厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

7. 研究についての相談窓口について

研究に試料・情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。試料・情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院（病院長：横手 幸太郎）

病理診断科 医員 長野 菜穂子

043（222）7171 内線3124